

銅 概 況

大阪市中央区玉造2丁目28番10号
加藤金属興業株式会社

◎ 2019年10月の国内電気銅建値は下記の通りです。

10月	1日	～	660円/Kg
10月	4日	～	640円/Kg
10月	10日	～	650円/Kg
10月	16日	～	670円/kg
10月	24日	～	680円/kg

2019年10月度は平均で663.10円/kgとなり、前月比4.70円/kgの値上がりとなりました。

海外銅価の動き

10月のLME銅相場	10/1～10/27 (安値ドル 5,599.00～5,888.50 高値ドル)
10月のNYC銅相場	10/1～10/27 (安値セント 254.50～268.25 高値セント)

10月度のLME現物は、10/1 \$5,610.00でスタート。10月のスタートは銅の大量消費国の中国が国慶節と言うこともあり、静かな始まりとなった。10月末に発表された中国の製造業PMI（購買担当者景況指数）が市場予想49.5を上回る49.8だったことから、銅相場は動きが弱いながらも支えられた格好となった。しかしながら、景況判断の分かれ目と言われる50を5か月連続で下回っており、米中貿易摩擦の長期化を多少なりとも緩和するような材料にはならない。一方米国労働省が4日に発表した雇用統計では、失業率は3.5%と50年ぶりの低水準だった。非農業部門の雇用者数は昨年までの増加ペースからはやや減速しているものの、7月8月は予想を上方修正するなど引き続き雇用は堅調に推移しているとみられる。

国慶節明けには、合意したはずの中国による米農産物の輸入についても一部中国政府高官が異議を唱えるなど両国の認識の溝がクローズアップされるなど、銅相場には重石となっている。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2019年1月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,050	23,561	+2.2%	24,237	+2.9%	24,854	+1.9%
全世界地金消費	23,108	23,782	+2.9%	24,413	+2.7%	24,981	+1.8%
全世界需給バランス	-58	-211		-175		-127	

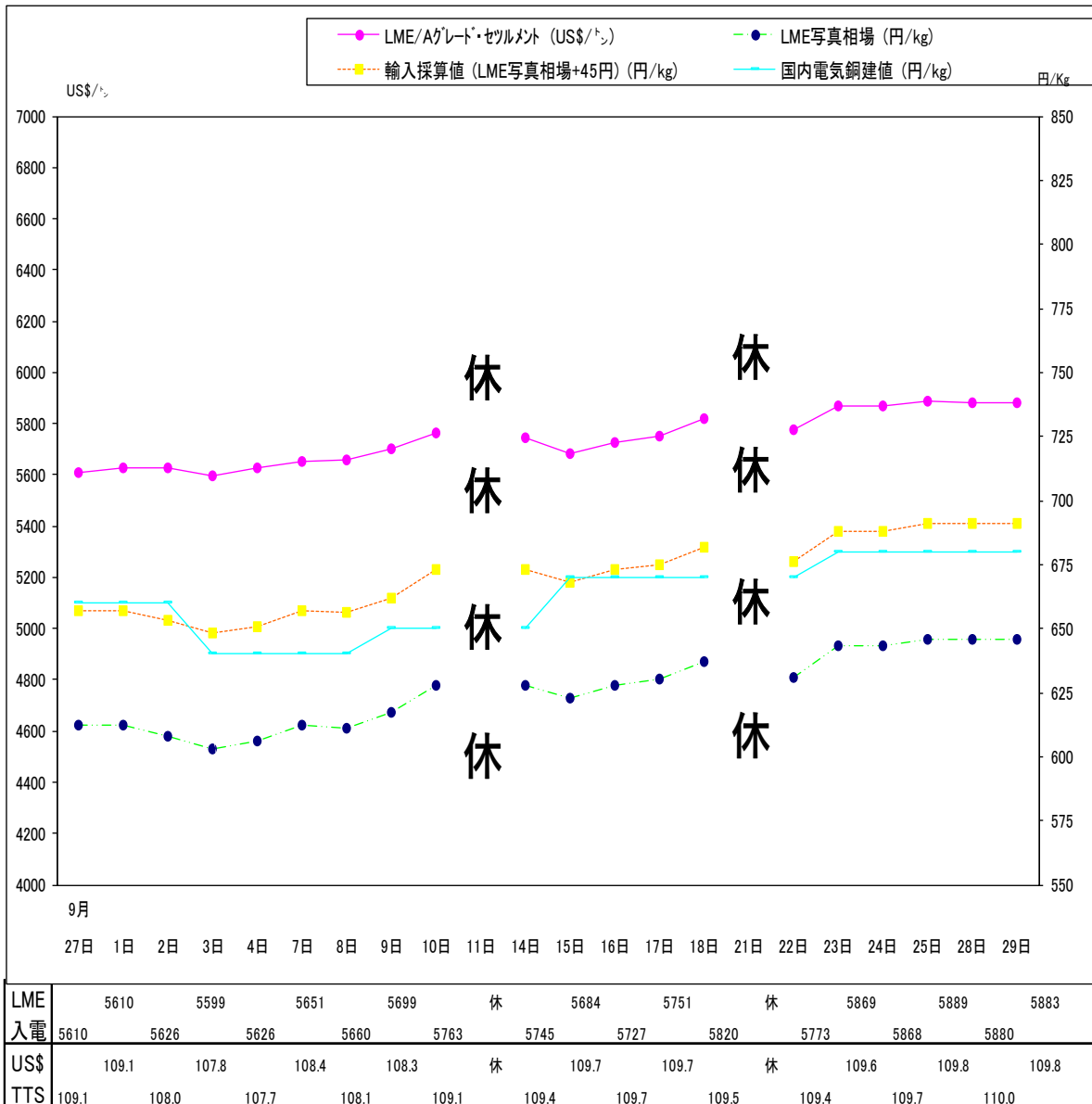
先行き短期見通

国内銅価

10月度の国内建値は1日660円/kgでスタート。世界経済は悲観的要素が強く銅相場も大きくは動かず。4日640円、10日650円、16日670円、24日680円と為替の影響が濃い形で推移した。

10/30付LME \$5,883.00、同為替(TTS) 1USD=109.87円で日本円換算計算値647円/kg。2019年11月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限り、690円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 2019年10月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 10月 1日 ~ 313 円/kg
- 10月 4日 ~ 301 円/kg
- 10月 11日 ~ 310 円/kg
- 10月 17日 ~ 319 円/kg
- 10月 23日 ~ 322 円/kg
- 10月 28日 ~ 331 円/kg

平均315.50円/kg

2019年10月は上記の通りで前月比 16.10円/kgの 値上げとなりました。

これはLME亜鉛相場が上昇したため。

◎ その他の建値

電気鉛	10月	296.00 円/kg	(前月比+	11.80 円/kg)
電気錫 (相対)	10月	3,150.00 円/kg	(前月比-	20.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	10月市中価格	1,950.00 円/kg	~ 2,000.00 円/kg	
銀	9月平均	64,430.00 円/kg	(前月比+	4,440.00 円/kg)
	10月31日	63,830.00 円/kg		
金	9月平均	5,243.21 円/g	(前月比+	90.59 円/g)
	10月31日	5,261.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

2019年9月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		8月度実績	9月度速報	前月比	前年9月度実績	前年同月比
銅	板	1,549	1,503	-3.0%	1,329	13.1%
	条	17,224	20,816	20.9%	22,319	-6.7%
	管	7,048	9,114	29.3%	9,487	-3.9%
	棒	1,925	2,029	5.4%	2,141	-5.2%
	線	241	269	11.6%	268	0.4%
黄銅	板	589	605	2.7%	594	1.9%
	条	6,701	7,680	14.6%	9,445	-18.7%
	管	433	480	10.9%	524	-8.4%
	棒	13,251	14,306	8.0%	15,106	-5.3%
	線	1,695	1,978	16.7%	2,501	-20.9%
青銅	板	1,883	2,147	14.0%	2,397	-10.4%
	条					
	棒	202	224	10.9%	238	-5.9%
	線	49	49	0.0%	66	-25.8%
洋白・その他	板	310	315	1.6%	474	-33.5%
	条					
	棒	23	26	13.0%	39	-33.3%
	線	267	389	45.7%	387	0.5%
合計		53,390	61,930	16.0%	67,315	-8.0%

9月の伸銅品生産速報は、61,930トンで前月比プラス8,540、前年同月比マイナス8.0%となり、前年同月比が10ヶ月連続でマイナスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の7月分実績及び8月分推定によれば、7月分実績は総計63,716tと(全年同月比7.2%増)と8ヵ月振りに60,000t超えとなり、2ヵ月ぶりに増加に転じた。建設電販(同13.0%増)と自動車(同20.0%増)、通信(同22.1%増)が好調で、電力、電気機械、輸出の3部門を除き前年同月を上回った。

一方、8月分の銅電線出荷推定は、7部門中4部門が前年同期を割り込み、総計が53,200tで同3.4%減と再びマイナスに沈み、踊り場状態になった。部門別では自動車が同8.0%増と11ヵ月連続で増加し、電力が同3.7%増と3ヵ月ぶりにプラスに転じて、輸出もスポット需要で同24.6%伸長した。しかし、ウェイトが高い建設電販20,069t(同2.2%減)と11ヵ月ぶりに減少し、電気機械(同15.5%減)も貿易摩擦の影響で大きく下降した。加えてその他内需(同6.9%減)と通信(同17.1%減)も不調だった。

7月分の部門別出荷は、プラスグループは4部門。自動車は生産台数が好調なため同20.0%増、建設電販も同13.0%増と各々10ヵ月連続で伸長し、建設電販は再開発プロジェクトや駅舎のリニューアルが活況で久々の30,000t超えに。通信、内需も増加した。

一方マイナスグループは3部門。電力はCVケーブルの張替需要がペースダウンし同1.8%減。電気機械は米中貿易摩擦や中国経済の減速などの影響で11ヵ月連続での同3.6%減となった。輸出も韓国や世界経済の減速で同40.1%の大幅な減少となった。

2019年7月分(実績)・2019年8月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	7月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	8月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	7月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	1,007	36.1	22.1	700	(▼30.5)	▼17.1	1,607	(26.8)	13.9
電 力	(1,166) 4,380	(▼19.9) 15.5	(12.2) ▼1.8	(1,700) 4,000	(45.8) ▼8.7	(33.1) 3.7	(799) 5,269	(▼21.2) 17.4	(3.8) ▼9.7
電 気 機 械	(380) 12,478	(5.6) 8.7	(▼17.7) ▼3.6	9,600	▼23.1	▼15.5	(349) 16,710	(4.2) 7.5	(▼21.6) ▼9.0
自 動 車	(162) 8,354	(33.9) 12.4	(60.4) 20.0	6,500	▼22.2	8.0	(540) 38,903	(27.1) 11.9	(34.0) 20.0
建 設・電 販	(36) 31,742	(71.4) 14.6	(227.3) 13.0	26,900	▼15.3	▼2.2	(27) 35,885	(22.7) 14.1	(80.0) 7.6
その他内需	(60) 4,686	(▼26.8) 14.6	(3.4) 6.5	(500) 3,900	▼21.6 ▼16.8	(5.7) ▼6.9	(74) 8,720	(▼7.5) 24.5	(13.8) 20.8
内 需 計	(1,804) 62,647	(▼11.5) 13.4	(8.0) 8.6	(2,200) 51,600	(22.0) ▼17.6	(25.7) ▼4.0	(1790) 107,093	(▼4.6) 13.3	(5.4) 8.6
輸 出	(772) 1,069	(187.0) ▼24.0	(142.8) ▼40.1	(300) 1,600	(▼61.1) 49.7	(1328.6) 24.6	(422.0) 4,857	(199.3) 5.9	(165.4) ▼24.1
合 計	(2,576) 63,716	(11.6) 12.5	(29.5) 7.2	(2,500) 53,200	(▼3.0) ▼16.5	(41.2) ▼3.4	(2,212) 111,950	(9.6) 12.9	(19.1) 6.6
心線販売	(719) 33,032	(74.1) 9.3	(▼45.1) 7.8	(400) 24,500	(▼44.4) ▼25.8	(▼61.8) ▼9.7	(178) 22,825	(64.8) 10.1	(▼52.3) ▼3.8

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2019年7月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比(%)	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比(%)	
裸線	3,620	1.7	▼3.7	3,444	9.6	▼3.8	
巻線	11,866	8.3	▼2.1	12,626	7.7	▼5.5	
機器用電線	3,651	13.4	0.0	10,168	11.3	▼6.6	
通信用電線・ケーブル	1,546	14.5	5.6	3,431	13.4	7.3	
電力用電線・ケーブル	24,472	18.5	12.9	25,112	18.0	5.7	
被覆線	11,932	9.3	8.1	16,913	11.6	7.0	
輸送用電線	6,629	10.9	15.2	40,256	12.9	17.0	
銅電線計	63,716	12.5	7.2	111,950	12.9	6.6	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル 電力用電線・ケーブル、被覆線 計	99 3,969 4,074	17.9 27.2 27.0	15.1 36.6 35.8	308 4,507 4,845	16.2 26.9 26.3	10.0 31.7 29.1
アルミ電線計	2,576	11.6	29.5	2,212	9.6	19.1	
光製品	3,487,858	▼7.9	▼18.1	22,121	1.0	▼2.2	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	5,133	10.1	39.9	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場、第1週は、米が中国企業の米国証券市場上場阻止や金融市場への投資制限を検討していると報道されたことで米中貿易摩擦の悪化が懸念され下押し。欧州圏の製造業PMIの低迷を背景としたユーロ安・ドル高を受け相場は軟調に推移し、2017年以来となる安値\$1,710台へ。また、2.6万MT強の在庫増もあり最安値\$1,706をマークしてスタート。第2週、米国のさえない経済指標の結果を受けドル安が進むとやや相場を押し上げて、中国国慶節入り前の水準まで回復。FRB議長の発言を受けたドル高により値を戻す展開。米中通商会議を前に様々な情報が交錯する中、±\$10の狭いレンジでの推移となる。第3週、米中閣僚級通商協議で第1段階の部分合意は表明されたが、中核分野での溝はまだ深く最終合意までの道は遠い。中国貿易統計の悪化を受け上値は重い展開。米中貿易交渉、Brexitの先行きが不透明なことから\$1,710～\$1,730の狭いレンジでの推移が続いている。第4週、英EU離脱案の修正協定法案審議に関して、迅速な審議・採決を求める提案は否決。離脱期限の今月末の離脱はほぼ不可能に。ユーロ安・ドル高に抑えられ上値は限定的。引き続き狭いレンジでの推移となる。最終週、米中通商協議の進展や英のEU離脱期限延期などで底堅く推移。米10月の消費者信頼度指数が予想に反して9月から悪化。ドル安ユーロ高で下値を支えている状況。FOMCの結果待ち、中国製造業PMIの公表などイベント次第の様相ですが、当面は狭いレンジの動きで\$1,750前後での小幅な推移予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2019年 10月積 1,829.00～1,840.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2019年 10月積 212.30～213.60 円/kg
- ・NSP 2019年 8月 239.20 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2019年 10月～12月 250.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'19年8月	'19年9月	'18年9月
月生産	*2,357.0	2,285.0	2,291.0
平均日産	*76.0	76.1	76.4

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

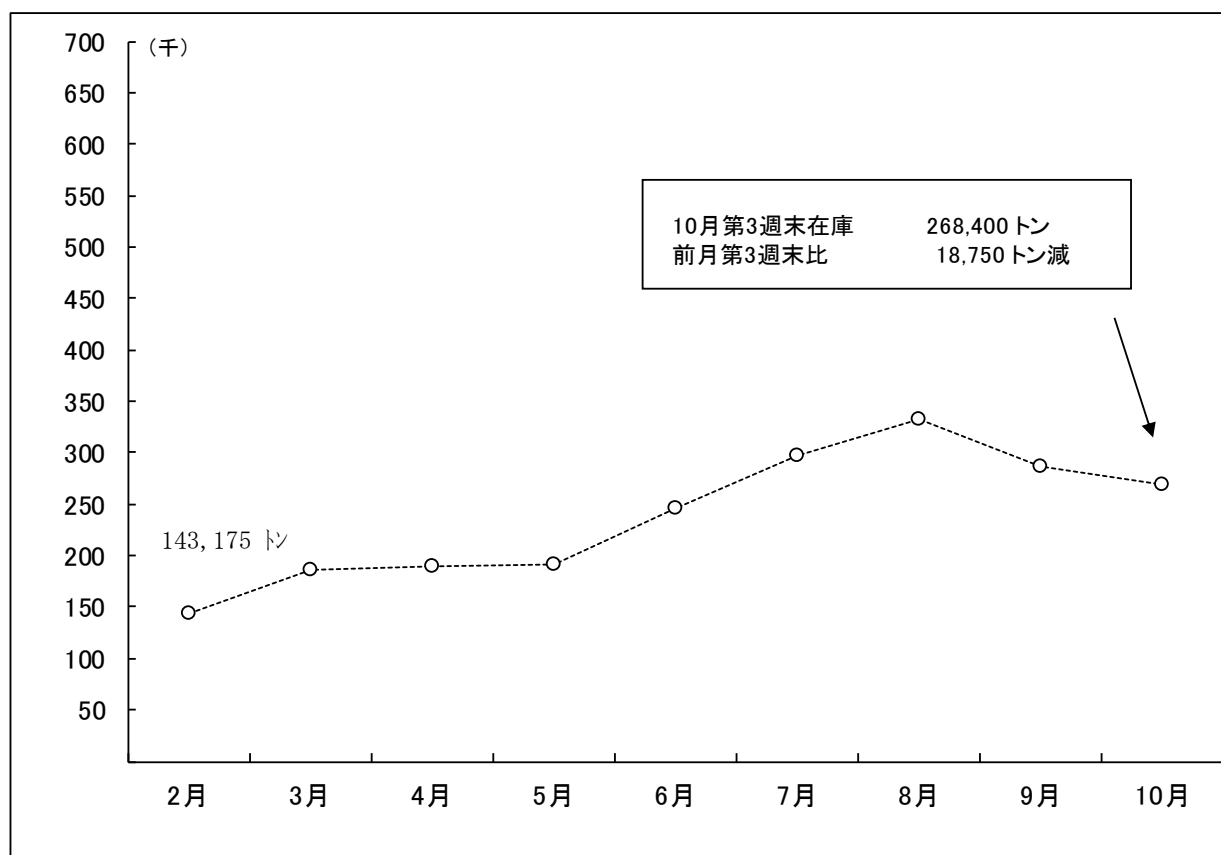
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2019年6月	2019年7月	増減	2018年7月	増減
横浜	154,300	153,800	-500	156,600	-2,800
名古屋	130,700	140,000	+9,300	138,800	+1,200
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	300,000	308,800	+8,800	310,400	-1,600

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・ 19年10月18日現在 35,888 S T 前月比 5,350 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 19年8月末 105,457 トン 前月比 10,552 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 19年8月確報 53,390 トン
 ・ 19年9月速報 61,930 トン 前月比 115.9 %

◎ 電線出荷実績

・ 19年9月速報 61,100 トン 前月比 114.8 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 19年 9月	板 類	97,884 トン	
	押出類	64,010 トン	
		<hr/>	
		161,894 トン	前月比 119.7 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。